

金融負債の公正価値測定：自己信用リスクの変動に 焦点を当てて

陳, 釗

<https://hdl.handle.net/2324/1959071>

出版情報：Kyushu University, 2018, 博士（経済学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

氏名	陳 釗			
論文名	金融負債の公正価値測定 —自己信用リスクの変動に焦点を当てて—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	大石 桂一
	副査	九州大学	教授	大下 丈平
	副査	九州大学	准教授	潮崎 智美

論文審査の結果の要旨

その他の包括利益（OCI）とその純利益へのリサイクリングは、会計基準設定上、重要な論点の1つとなっている。本論文は、金融負債の公正価値測定を切り口にして、この問題にアプローチするとともに、金融負債の望ましい会計処理のあり方を明らかにするものである。

本論文では、まず公正価値測定に関する学説および会計基準の形成・展開過程を丹念に跡づけた上で、金融負債の公正価値測定を支持する議論とそれに反対する議論を吟味し、これまでの賛成論・反対論のいずれもが欠陥を孕んでいること、および、いわゆる「負債のパラドックス」を完全に解消するのは不可能であることを明確にしている。これを踏まえ、「目的適合性」と「表現の忠実性」という会計情報の質的特性に照らして検討した結果、金融負債の公正価値測定に自己信用リスクの変動を反映すべきであるということを明らかにしている。次いで、不可避免的に生じる「負債のパラドックス」の悪影響を緩和するという観点から、自己信用リスクの変動に起因する金額の損益計算書における表示を検討し、当該金額は純利益よりもOCIに計上した方が財務諸表利用者はミスリードされにくくなること、および国際会計基準審議会が純利益にリサイクリングしないと規定する根拠には論理的な矛盾があることを明らかにした上で、財務報告システム全体の信頼性を確保するためには、OCIに計上した上でそれを純利益にリサイクリングする処理が望ましい会計処理であると結論づけている。

本論文の貢献は、学説および会計基準の丹念な分析と緻密な論理展開によって、望ましい金融負債の公正価値測定のあり方を導き出した点にある。とりわけ、財務報告システム全体の信頼性という新たな観点から考察を加えたことにより、OCI問題に対して一定の解決の方向性を示したことの学術的および実践的意義は大きい。

以上の調査結果から、本論文調査会は、陳釗氏より提出された論文「金融負債の公正価値測定—自己信用リスクの変動に焦点を当てて—」を博士（経済学）の学位を授与するに値するものと認める。